

3. CYRの活動(1)「公立幼稚園への支援」～子どもたちの笑顔のために～

現在、カンボジア国内で幼稚園に通える3～5才児は、全体の33%といわれ、首都プノンペンでは幼児教育を受ける子どもも増えてきましたが、農村部では幼稚園がない、または通えず、小学校に入っても留年・中退する子どもが多いのが現状です。カンボジア政府は、幼稚園を増設していますが、幼児教育に充てられる予算(1人あたり年間2ドル)が十分ではありません。CYRは農村部での幼稚園開設に加え、政府の幼児教育拡充に協力して、2004年より公立幼稚園への教材・遊具の提供と保育者研修を実施し、幼児教育の質の向上を図っています。

配布する教材は、絵本やカンボジアの伝統的な詩歌の本、文字と色のパズル、布製の人形やボールです。人形とボールは、CYRが日本で実施するボランティア「みんなで布チョッキン」の活動からまかなわれます。布チョッキンは不要になった布を型紙に合わせて切り、寄付金を添えてカンボジアへ送る活動です。現地の女性たちがその布で人形やボールをつくり、遊具の不足する公立幼稚園に提供しています。また、布と一緒にいただく寄付金(人形1体につき1,000円、ボール1個につき500円)は、遊具の材料費、縫製賃、運搬費、保育者の研修の費用に使われます。完成した遊具ではなく材料を日本から送ることで、女性たちが縫製をし、収入を得る機会を生み出しています。内戦の影響で30代以上の男性が少ないため、家計を支えていることも珍しくないカンボジアの女性たちにとって、大切な収入です。

この現地の女性の雇用創出、保育者研修、幼稚園への遊具提供という連携作業を支えているのが日本のボランティアの方々です。個人の方に加え、企業や団体、学校単位でも休憩時間や就業後に取り組んでいただいている布チョッキンが、魅力的な幼稚園づくりを支えています。
(特定非営利活動法人幼い難民を考える会)

